

(財) 自治体国際化協会 ロンドン事務所 マンスリートピック (2013年5月)

【北アイルランドのデリー/ロンドンデリーが初の「英国文化都市」に ～ 協賛金とチケット売上の収入が低迷との報道も】

今年2013年は、北アイルランドのデリー/ロンドンデリー (Derry/Londonderry) 市¹が初の「英国文化都市 (UK City Culture)」に指定されている年であり、同市では、文化関連の様々な行事が開催されている。英国の都市の中から「英国文化都市」を選定し、特定の年に、1年を通じてイベントを開催するという案は、2009年1月、アンディ・バーナム文化・メディア・スポーツ相 (当時) によって発表された。政府は当時、この計画について、「リバプール市が2008年の『欧州文化首都 (European Capital of Culture)』²として達成した成功を更に発展させる試みである。リバプール市は、『欧州文化首都』に選ばれたことによって、社会的及び経済的に多大な恩恵を受けた」と述べていた。

続いて2009年3月、バーナム文化・メディア・スポーツ相は、「英国文化都市」を実行する可能性について検討する作業部会を設置し、テレビ番組のプロデューサーで脚本家のフィル・レッドモンド氏を議長に指名した。作業部会は、「英国文化都市」を選定する頻度や、「英国文化都市」に選ばれた都市で開催できると考えられる行事などについて検討した。作業部会は、2009年6月に発表した報告書で、「英国文化都市」を選定する頻度は4年毎とすることを提案し、政府はこれを採用した。また、政府は当初、「英国文化都市」で開催される行事として、「ターナー賞 (Turner Prize)」や「ブリット賞 (Brit Awards)」、「マン・ブッカー賞 (Man Booker Prize)」や「スターリング賞 (Sterling Prize)」³の授賞式などの通常ロンドンで行われるイベントを想定していたが、報告書は、「英国文化都市」のプログラムは毎回同じイベントで構成されるべきではなく、選定された都市がイベントの責任者と協議し、地域性等の点を考慮した上でその都度決めるべきであると提案した。

¹ 同市の名称はもともと「デリー」であったが、17世紀にイングランドがアイルランドの植民を進めた際、王の勅許状により、「ロンドンデリー」に改称された。同市の名称については、北アイルランドの英国への帰属を支持するユニオニスト (unionists) が「ロンドンデリー」を支持し、アイルランド島全土の統一を支持するナショナリスト (nationalists) が「デリー」を支持していることから、両勢力間で論争の種になっている。1984年、ナショナリストの政党が過半数を占めていた同市の市議会は、(地名ではなく) 自治体名を「ロンドンデリー市 (Londonderry City Council)」から「デリー市 (Derry City Council)」に変更するとの案を承認した。しかし、2006年に同自治体が地名を「ロンドンデリー市」から「デリー市」に変更しようとして法的手段を講じた際は、裁判所がこれを拒否した。だが実際には、今回の「英国文化都市」のウェブサイト (<http://www.cityofculture2013.com/>) を見ても分かるように、地名を意味する場合も、「デリー市」及び「ロンドンデリー市」の両方が使われている。

² 「欧州文化首都」とは、欧州連合 (EU) が指定する EU 加盟国内の都市で、1年間を通して文化関連行事を開催するというプログラムである。「英国文化都市」は、「欧州文化首都」にヒントを得て計画・実行されたものである。

³ 「ターナー賞」は現代美術の賞、「ブリット賞」は音楽賞、「マン・ブッカー賞」は文学賞、「スターリング賞」は建築の賞で、毎年授賞式が行われる。

この報告書の発表後、文化・メディア・スポーツ省（Department for Culture, Media and Sport、DCMS）は、初の「英国文化都市」を選ぶコンペティションを実施した。2009年12月の締め切りまでに国内14の都市が応募し、うち4都市（バーミンガム市、デリー/ロンドンデリー市、ノリッジ市、シェフィールド市）が最終候補に残った。前述の作業部会による審査の結果、2010年7月、デリー/ロンドンデリー市が、2013年の「英国文化都市」に選ばれたことが明らかにされた。

同市は、「英国文化都市」の開催業務を担う外郭団体を設置したが、2010年12月、同団体からこの業務を引き継ぎ、市が直接手掛けることを決めた。同市は、その理由を、事業の運営と財政に関する懸念のためであると述べたが、開催準備に「危機」が生じているとの報道は否定した。

デリー/ロンドンデリー市での「英国文化都市」の一連の行事は、2013年1月1日に始まり、最初の100日間で、同市内のホテルの宿泊率は20%上昇した。一方で、2013年5月には、スポンサーからの協賛金及びチケットの売上からの収入が当初見込みを大きく下回っていることが報じられ、一部の小規模な行事やイベントのプロモーション活動が規模縮小を余儀なくされた。同市は、こうした状況を打開するため、プロモーション費用として130万ポンドの補助金の提供を北アイルランド政府に要請したが、同政府はこれを拒否した。

* * *

2017年の「英国文化都市」は、2013年11月にデリー/ロンドンデリー市で発表される。2013年2月末の締め切りまでに国内11の都市が名乗りを上げ、同6月に最終候補の4都市が発表された。これら11都市とは、イングランドからはチェスター（Chester）、イースト・ケント（East Kent）、ヘースティングス及びベックスヒル・オン・シー（Hastings and Bexhill-on-Sea）、ハル（Hull）、レスター（Leicester）、プリマス（Plymouth）、ポーツマス及びサウザンプトン（Portsmouth and Southampton）⁴、サウスエンド・オン・シー（Southend-on-Sea）で、ウェールズからはスウォンジー・ベイ（Swansea Bay）、スコットランドからはアバディーン（Aberdeen）とダンディー（Dundee）であった。このうち最終候補に残っているのは、ハル、レスター、スウォンジー・ベイ、ダンディーである。

⁴ 「ヘースティングス及びベックスヒル・オン・シー」、「ポーツマス及びサウザンプトン」は、2地域が共同で立候補したものである。